

認知症に関する活動計画（概要）

福岡県作業療法士会では、保健福祉部内に認知症作業療法推進委員会を設置し、保健福祉 部理事を含めて6名で活動をしている。活動は、「認知症アップデート研修」をはじめとした研修の開催、会員に対する最新知識の普及活動を実施している。今後は、地域活動などとのつながりを深め、並行して、地域活動が出来る作業療法士の育成、県士会員のつながりの強化を図る活動を継続的に実施していきたい。

会員向け研修事業

令和2年11月17日、25日と2日間に分けて、認知症アップデート研修をオンラインで開催し、64名の会員が参加した。認知症アップデート研修は、これまで4年間で5回開催し、延べ384名の修了者となった。今年度も、11月にオンラインで開催予定としている。

また、今年度は、応用的な研修として、地域における認知症支援に関する内容を企画し、オンラインでの開催を予定している。

市町村事業などへの協力体制の構築 事業

各市町村での協力体制の構築を目指し、認知症関連の地域事業の状況把握を適宜実施している。また、行政から協力依頼があった際は、スムーズに人材派遣が行える体制作りを検討している。現在も認知症サポーター養成講座研修の講師派遣等を行なっている。

「福岡オレンジパートナーズ」への登録の検討

福岡オレンジパートナーズとは、認知症の人とその家族、企業、団体、医療、介護、福祉事業者、行政で構成し、認知症について自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ためのコンソーシアムであり、認知症になっても自分らしく生きるために何が出来るかを考え、実際の取り組みにつなげることを目指している。委員会内で本事業について担当課長による説明会を実施し、現在、団体登録に向けて動いている。



認知症関連事業の会員の実態・意向調査の検討

会員の認知症関連事業の実践者や意向の把握、その繋がり作りを目的として、Webアンケート調査を予定している。アンケート集約をもとに、将来的には協会内で認知症事業の人材バンク・ネットワークを構築し、育成しながら各市町村事業に派遣・協力できる体制の整備を目指している。

認知症・草の根ネットワーク(北九州)への協力

認知症・草の根ネットワークの活動は主に認知症カフェモデル事業の運営など。現在、2名の作業療法士が理事として活動をしている。

COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

委員会活動や研修事業は全てオンラインで実施している。オンラインの特性を生かしながら、収束後は、スムーズに対面事業に移行ができるように整備をしていきたい。